

- 氏名 : 大藪 敏彦
- 会員番号 : FE-0422
- 専門分野 : プロジェクトマネジメント、品質マネジメント
- 保有資格 : PMI - PMP, Agile Certified Practitioner
American Society for Quality -
Certified Quality Manager, Supplier Quality
Professional, Quality Engineer, Quality Auditor,
Six Sigma Black Belt



FE 試験受験 : 2020/07

1. 受験の動機

海外駐在経験はありませんが、以前より海外の顧客やサプライヤーと仕事する機会が多く、客観的に自身の力量を説明できる国際的な資格に高い関心がありました。

これまでプロジェクトマネジメントや品質マネジメントという個別の業務領域については、アメリカの関連団体が提供している資格制度を活用してきました。

しかし、より広義にエンジニアとしての資格を取得したいと考えるようになりました。中長期的には、PE となるべく、今回 FE 試験の受験を決意しました。

2. 勉強の方法

まず何より、Mechanical や Civil と異なり、Industrial and System は FE/PE 試験の受験者・PE 登録者が圧倒的に少なく、テキストや勉強法等の情報収集に苦戦しました。

分野に共有の Mathematics、Engineering Sciences、Probability and Statistics 等は、大昔に大学教授から推薦され購入していた **Engineer-In-Training Reference Manual 8th Edition** (Lindburg) を引っ張り出してきて学習しました。

これらの科目は、学生時代から遠ざかっていること、日々の業務中で携わることが少ないこと、また、英語であることなどから基本的な知識の復習から始めました。旧版ではありましたが、内容的には十分網羅されていましたので、本書で練習問題までこなしました。

Industrial and System 固有の科目 (Engineering Management、Work Design、Systems Engineering 等) については、**PPI (Kaplan) の FE Industrial Exam Prep** を活用しました。幸い、プロジェクトマネジメントや品質マネジメントは日々の業務や各種資格試験を通じて、一定の知識の蓄積があったので、自信のない Manufacturing, Service and Other Production Systems、Facilities and Supply Chain、Work Design に時間を費やしました。

実際の試験で唯一参照が可能である FE Reference Handbook (NCEES) もしっかり使いこなせるようになる必要があると考えました。まず、Handbook に何が含まれているかと把握しておく必要があります。Handbook に記載されている数式は覚える必要はないのですが、しっかり使いこなせるように FE

Industrial Exam Prep の練習問題と解きました。

試験の 2 ヶ月前からは、FE Industrial and Systems Practice Exam (NCEES) と FE Industrial Exam Prep の Review Test 等問題を解くことに集中しました。弱点をどのように克服するかも重要ですが、FE 試験は満点をとる必要はないので、いかに解ける問題を試験当日に取りこぼさないかという点に焦点を当てました。

3. 試験当日について

受付が早い時間帯だったので Pearson Professional Center 付近に前泊し、当日は十分に余裕をもって受付を行いました。受付で順番待ちが長くなると気持ちが焦ってくるのでできるだけ早めに受付を済ませることをお勧めします。

試験自体は、タイムマネジメントが重要な要素となると思います。私の場合には、まず高い確率で正解がとれる問題を先に解答することを意識して、すべての問題に目を通すことにしています。

まずは、解答の検討がつかない問題や、計算に時間を要する問題は後回しにして、点数がとれる問題を先行して答えることが重要です。

次に、時間がかかるが解答を導き出すことができる問題を解きました。どうしても解答できない問題もありますが、選択式であり、間違っても減点される訳ではないので、いずれかをマークすることは必須です。

4. 今後について

まずは、しっかりと学習を続けて PE 試験の準備を進めたいと思います。FE 同様に、Industrial and Systems 受験者が少なく情報が限られているので情報収集から始めなければなりません。

その過程で、JSPE の活動に参加するなど、情報の収集や知識の向上を図って参りたいと思います。

以上